

第17回日本語大賞

特定非営利活動法人日本語検定委員会



中学生の部 優秀賞 受賞作品

『和を以て貴しとなす』

東京都

白百合学園中学校

二年 金井 綺花

和を以て貴しとなす

白百合学園中学校 二年
金井 綺花（かない あやか）

私は争いごとが苦手です。

争いごと、と大げさに言いましたが、日常生活では、誰かと意見を戦わせる場面や、主張をしなければならぬ場面として現れてきます。そのような場面で、私は「どうすれば穏便に済むだろうか」、「他の誰にも嫌な思いをさせずに終わらせられるだろうか」、と考えてしまい、一歩引いてしまうことがあります。この決断自体に後悔はあまりないのですが、この表現でできなかった自分の気持ちや思いが心の中で漂っている気がして、この気持ちや思いはどうすれば良かったのだろうかと考えてしまうこともあります。

『和を以て貴しとなす』、聖徳太子が定めた十七条憲法の第一条に由来するこの言葉を知った時、「私は大事な『和』を守ったんだ」、そう思うと昇華されず私の中に漂っていた気持ちや思いがスッと軽くなり、心の外に出て行った感覚を覚えました。それ以降、私は争いごとを避ける自分自身に関してネガティブな気持ちになることなく過ごしていました。ある時友達同士の意見が割れることがあり、私が自分の意見を言わなければならない事態となりました。どちらの意見を支持しても、支持されなかった方は良い気持ちにはならないことは明白なので、心の中で私は困り果ててしまいました。その間にも友達同士の議論は白熱し、白熱を通り越して言い合いに近い状況にまで達してしまいました。どちらの言い分も分かるし、どちらも正しいことを言っている、それにも関わらず意見は対立してしまっている、私にとってはどちらの友達も等しく大事で、自分の意見で片一方に辛い気持ちや悲しい思いを感じてほしくない、いつしか私の心の中は「意見を言いたくない」ではなく「どうすれば友達同士が分かりあえるのか」に変わっていました。そして、私は遂に言葉を発することを決意しました。まずは、二人の言い分をそれぞれまとめてみました。その後で、自分がそれらの言い分についてどう思うか、どう感じたかを伝えました。最後に、二人の意見はどちらも正解だと思うから、一方が正しい、他方が正しくない、ではなく両方正しい、この件は正解が二つあるのかもしれない、と自分なりの考えをまとめて「意見」を伝えてみました。私の意見が良かったのかは分かりませんが、二人も「そうかもね」と言い、別の話題に移っていきました。

これまで私は『和』は波風立てずに穏便に済ませることとイメージしていましたが、この出来事をきっかけにして本当の『和』はお互いが個性や意見を尊重しあい、その上で自分自身を表現し、それを受け入れ合つことではないかと認識を改めることになりました。そのような認識の下で生活を送っていくと、『和』を生み出し保っていくのはとてもとても大変なことであると感じています。私自身も『和』から遠い振る舞いをしてしまうこともありますし、周りの人がそうであることも多々あります。他人に『和』を強要することはできませんが、私が『和』を大事にし、意識して行動や発言をすることで少しでも私の外の世界に『和』が生まれると良いなと思っています。そして、いつの日にか周りにも『和』を大事にしてくれる人が増えてくれると嬉しいです。

「和を以て貴しとなす」私のキャッチ「ピースをこれからもキャッチ」ピースにできるよう、自分だけではなく他者も尊重して『和』を大事にしていきたいと考えています。